

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ (東ユニット)		
所在地	〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」をもとに利用者が生き甲斐をもち楽しく安心に笑顔が絶えない環境を作っている。また、地域との交流を積極的に図り地域との繋がりが途切れない様にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北山崎、机浜に隣接した旧小学校の校舎、体育館、校庭跡を使用して事業を展開している。海岸、河川からは一定の距離があり、学校という構造物上、風水害などの災害にも強い建物で、福祉避難所としても地域の拠点になっている。コロナ禍にありながらも感染症対策を徹底し、規模を縮小した行事開催、地域小学生との交流にも取り組み、日常的に地域の方や家族から野菜、海産物等の食材の差入れを受けたり、定期的に理髪店、衣料品業者等が訪問するなど、積極的に地域との交流が行なわれている。ホームページを定期的に更新し、広報誌を地域にも回覧、配布し、情報の発信にも努めている。これまでやってきた洗濯物置みや、食器拭きなどの家事、畑作業などできることは自主性を尊重している。毎月郷土料理の日、豆腐料理の日、麺類の日を設定し、生活の楽しみでもある食の工夫にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で自信をもって唱和し、実践にも取り組んでいる。玄関先やスタッフルーム、各ユニットに掲示している。	事業所の基本理念「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」は、10年程前に経営者と幹部職員が話し合い、在宅時から継続した生活を支援する視点で、分かりやすく改めたものである。日々の介護で実践していくため、ホールや玄関などに掲示し、毎日の申し送り時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地区の行事がほとんどなくなっているが、保育園に育てた芋を届ける、文化展に作品を出展し見学、地域主催のゴミ拾いや草刈りなどには積極的に参加し協力している。施設の避難訓練にも地域の方の協力を得て行っている。	年間を通し、地域から野菜や海産物等の差入れをいただいている。村の文化展に利用者が作った作品を出展し見学に出掛けている。地区の清掃や草刈り、神社祭礼の清掃、旗立てに参加し、また地域の要請を受けて、職員がナモミに扮して家庭を訪問している。自家農園で育てた芋を保育園に提供したり、住民の希望で体育館、校庭の貸し出しを行うなど、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学校協働活動のひとつとして、小学生との交流会を行っている。その際に、認知症についてや、バリアフリーなどの説明も行っている。コロナ禍により認知症カフェは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催にはなっているが、運営推進委員には直接書類を届けながら、意見を伺っている。	委員は、民生委員のほか、村議員や家族代表など6名の方々に構成されている。現在も感染対策の一環として、書面による会議開催としている。入居状況や経過、コロナ禍での感染状況と対策について報告している。併せて身体拘束廃止委員会を行っている。意見等は特に出していない。	運営推進会議開催にあたって、構成委員に事前に運営課題等、協議事項を具体的に提示し、課題改善に向けた多角的な意見、提言等が出される環境づくりが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月のケア会議には出席しているが書面開催になることもある。役場や他施設担当者、包括支援センターと情報共有している。電話だけでなく、直接相談することもある。	地域包括支援センターの職員とは、入居者の決定や、重度化に伴う他施設の利用申し込みなどについて相談するなど連携に努めており、近くの診療所に寄った際には、地域包括支援センターの職員から声を掛けていただくこともある。地域ケア会議に出席し、各事業所の利用状況の交換や事業所持回りでの事例検討を行っている。	

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全確保のために玄関の施錠の工夫やセンサーの使用を最小限にするために、使用する時や外す時には身体拘束廃止委員会を開いている。毎回の運営推進会議で報告している。	身体拘束適正化指針を策定し、身体拘束廃止委員会を開催している。毎年度、外部団体主催の高齢者権利擁護を受講し、研修受講者による伝達研修を行っている。転倒の虞がある利用者の夜間のセンサー使用については、家族にリスクについて説明し了解をいただいている。身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について知識を身につけ防止に努めている。入浴時や更衣交換時に身体に異常がないかを確認して、皮膚異常報告書に記入し誰もが分かるように記録している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性の話し合いはしていないが、必要性があれば包括支援センターと連携し支援していく。研修会には参加申し込みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する時に契約内容や重要事項説明書を不安や疑問を確認しながら理解、納得してもらえるように分かりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情窓口を開設し、苦情があればすぐに対応している。日々の日常会話から聞いたり、面会時やケアプラン更新時に確認している。2ヶ月に1回の広報や利用者担当者からの日々の様子を書いた手紙を送っている。	意見箱の利用はなく苦情もない。事業所からの手紙に対してお礼の返事が寄せられる。家族からは、利用者ができている作業を継続させてほしい、水分を多めに取らせてほしい等の要望がある。家族への電話や自宅を見に行きたい、お粥から普通に変えたいなど、利用者の希望はその都度ユニットで検討し、要望に応えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や毎月の管理職会議で意見を聞く場を設け、代表者や管理者は意見について検討し、良いものは反映できるように努力している。	経営者との個別面談や管理職会議で意見を聞く場を設けている。入居者に必要な支援を柔軟に提供するため、職員からの提案を受け、一緒に話し合いながら支援の仕方などを調整している。職員の提案で入居者の動線上に手すりを取り付けている。	

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する勤務条件に出来る限り答えている。昇給、資格手当、夜勤や宿直手当、出張旅費、賞与、資格取得助成金制度があり活用している。お盆、正月勤務者は特別手当を頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも積極的に参加したり、資格取得のための研修にも配慮、協力している。必要に応じて実施指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベントがあれば、コロナ感染対策をしっかりと行いながら職員や利用者様との交流を行っている。G・H協会(全国、沿岸ブロック)に加入していて、勉強会などに参加している。村内外や他施設との情報提供や施設研修、相談等も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で言動や行動を観察、対話して、安心できる生活が送れるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に自宅(病院、他施設)へ訪問し、本人や家族との面会等を行い意向要望等を確認している。入所時にも家族等の不安や要望に耳を傾け相談しながら信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援や要望等に耳を傾けながら、コミュニケーションをはかり関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや新聞ゴミ袋作りなど協力しあい、共に生活している関係構築に努めている。		

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限が続いているが、ご家族様が施設に立ち寄った際にはガラス越しではあるが顔だけでも見てもらい、少しの時間の会話ができる配慮はしている。LINEによるカメラ電話の面会も可能としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍なので馴染みの方の来所は控えているが、感染対策を行い、天気や利用者様の体調などを見て地域のお祭りや四季が感じられるようにドライブなどを行っている。	半数以上の入居者は、入居前から月1回訪問の床屋さんを利用しており、馴染みで会話を楽しんだり、新たに馴染みとなっている方もいる。また、食材等を配達してくれるスーパーの近所に住んでいた方もおり、配達の都度、業者の方と会話している。ドライブでは、懐かしい隣町のお祭りを見たり、村民文化展に出掛けるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様と生活できるように座席など配慮している。一人が好きな利用者様には職員が、時折自室訪問してコミュニケーションに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内や施設で行ったイベントの写真が載った広報を配布して関係の途切れないように努めている。ご相談にも応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や行動などを観察し、思いや意向を聞いて希望に添えるように職員間で検討している。	日々の関わりの中で、日頃発する言葉や表情などから思いの把握に努めている。意向や希望、様子などを含めて業務日誌に記録し、職員全員で情報共有している。把握が困難な入居者の場合には、動作や表情、仕草などから思いを推し量ったり、それとなく確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報を聞いたり、本人様との話し合いで生活歴やライフスタイルを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り等で変化を見逃さないように観察して職員間で共有している。体調等は主治医、看護師に相談している。		

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様がしたい事、出来る事の要望を取り入れたり、出来ない部分や足りない部分をどうやったら出来るようになるかなどを、ケアマネや担当職員、ご家族様などと目標を設定し、変化などあればカンファレンスを行い計画の見直しを行っている。また、週一回訪問の看護師や理学療法士からの助言も頂いている。	介護計画は、6か月毎に計画作成担当者と居室担当者を中心に見直し、職員とのカンファレンスやモニタリングも行っている。日頃の関わりの中で、本人や家族の思いを聞き、介護計画に反映するようにしているほか、看護師や歯科衛生士、理学療法士の助言や指導も介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報が共有できるように申し送りノートや記録を活用している。気づきなどある場合は職員間で相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のコミュニケーションを大切にして、その時の言葉や行動での気づきを申し送りや記録を職員間で共有し、実践で介護記録の見直しに反映している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用や交流が少なくなっているが、四季を感じるドライブや施設の中でも楽しんで頂ける様に体育館又はユニットで毎月数回イベントを考案している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所に月一回の訪問診療にて定期受診して頂いています。他病院への定期受診は施設で対応している。一部ご家族が受診対応をいただいている。定期受診以外でも必要に応じて受診対応を行っています。必要に応じて協力歯科には訪問対応して頂いています。	ほとんどの利用者が在宅時から田野畑診療所をかかりつけ医とし、入居後は毎月訪問診療を受診している。入居に伴いそれまでの主治医からの紹介状で引き継いでいる方もいる。通院は家族で対応し、通院前に家族に病状等の情報を提供し、受診後に結果をケアマネ、ユニット長などが聴き取りしている。訪問診療の結果特に変化があった場合には、電話で家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師対応をしている。毎日午前午後のバイタル測定を行い体調変化の早期発見に努め、訪問時には、体調相談や処置方法など相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、密に病院関係者と情報交換を行い、利用者様やご家族様、職員が不安にならないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し当施設での対応が困難になった時の事を事前にご家族様と話し合っている。入院が必要な場合は入院準備をし、メンタル面の支援も出来るようにしている。特養申し込みなども行い対応している。	入居時には、重度化や終末期の対応について説明しており、常時医療が必要になったり、自立度が悪化した場合には、他施設への住み替えを支援している。家族とは、ケアプラン更新時に現状について報告し、本人、家族への精神的なフォロー等も行っている。家族の代理で入所申込みも行っている。協力医とは、24時間連絡がとれる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師などに相談し、急変時や事故等に備えている。また、施設内でAED講習会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの避難訓練を年2回実施している。そのほかの月は施設内で避難訓練を行い、あらゆる事態に備え、緊急連絡網を作成している。	消防署立ち合いの避難訓練を年2回のほか、夜間想定避難訓練1回、AED対応訓練2回を行っている。避難訓練には、地区の方々が協力員として参加しており、3、4名の方が直ぐに駆けつける体制になっている。事業所は、津波災害等の1次避難所であり福祉避難所の指定も受けており、飲料水、保温シート、タオルケット、毛布、電灯、反射ストープ、ポータブル発電機のほか、食料、食料は普段から多めに確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な対応に心掛けプライバシーを気遣い、個々に分かりやすく声掛けを行っている。	職員の言葉の内容や語調が、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないように配慮している。聞き取りにくい方には、「ゆっくり、はっきり」話すようにしており、目線の高さを合わせコミュニケーションを図っている。本人の気持ちを大切に、自己決定しやすい言葉掛けに努めている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いを尊重している。遠慮しているようであれば、さりげなく声掛けを行い体調に合わせて自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望をくみ取るように努めて、ペースを崩さないように思いを聞き、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の散髪支援を本人様決定で行っている。入浴後の着換えなどは同じ衣類にならないように気を付け、四季にあった服装を本人様希望で選んでいる。夏・冬に衣料品店が出張販売に来てくれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理などを定期的に提供して、誕生日には食べたい希望の食事をみんなと一緒に食べ、四季を感じる食事提供を心掛けている。出来る利用者様には、皮むきや包丁で切ってもらったりしている。テーブル拭きやお盆拭きは、毎日行っている。	献立は、利用者の希望も取入れながら当番の職員が考え、調理している。食材は週2回地元業者が配達しており、地域の方々からの海産物や野菜の差し入れも活用している。毎月11日は麺の日として豆腐を使った田楽、ラーメン、あずきぱっとう、ひつつみなど、毎月12日は豆腐の日、毎月25日は郷土料理の日として利用者も調理に参加している。新年会にはすし店に出張していただいたり、敬老会、納涼祭、クリスマスなどには、外部から取り寄せた行事にちなんだ会食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量はケース記録で確認出来るようにしている。医師の指示がある利用者様や個々の状態に合わせた食べやすい物を提供している。看護師の指示で食事療法も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを行い、定期的に歯科衛生士により指導や口腔内の確認と義歯の調整を行っている。		



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、さりげなく声掛けを行い自立を促している。	布パンツ、リハビリパンツを着用している。夜間にはポータブルトイレを3名が利用者している。排泄チェック表に沿って、時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの排泄を意識してもらい、結果としてリハビリパンツ、パットの使用頻度も減っている。排泄時には、トイレの外で待機し、排泄状態を○×△のサインで伝えてもらうなど、羞恥心へ配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や乳製品、プルーンの提供に努め、水分や運動などで便秘をしないように支援している。排便が3日無い時は飲み薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	洗身洗髪は、介助が必要な利用者様のみ行い、出来る限り自立を促し、週2~3回の入浴を提供している。菖蒲湯やゆず湯など、ゆっくり自分のペースで入浴出来るよう支援している。	基本的には、1人当たり週に2、3回午前中の中の入浴としている。入居者の要望で湯加減を調整したり、入浴時間の長短にも配慮している。また、1対1の入浴支援では身内の事や昔話など、たわいのないことを話すなど、貴重なコミュニケーションの機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を勧め、夜間の不眠に繋がらないようにして、日中の運動や外気浴など支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の訪問診療後、服薬の変更など職員間で確認し共有している。服薬時は、職員2名で確認、復唱し誤薬の無いようにし確実に飲み込むまでの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスタオルや洗濯たたみなど、出来る場所をお願いしている。テーブル拭きやお盆拭きを交替で行い、役割のある生活が送れるように努めている。		

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うように支援出来ていないが、日常的に外気浴や敷地内の散歩、四季を感じることのできるドライブクなどをを行い、気分転換を図っている。自宅を訪問し家族と会える期会を作っている。	温かい時には、ユニットごとに玄関先で日光浴するほか、畑での野菜収穫や草取りなどを行いながら外気に触れている。また、コロナ禍に留意しながら、田野畑の石割桜を見学ドライブしたり、普代のお祭りや村民文化展にも出掛けるなど、密集を避けた活動を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者様のみ所持している。買い物などお願いされた時のみ職員が購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	数名だが、ご本人様の形態でご家族様と連絡されている。希望があれば、いつでも電話できるようにしている。年賀状を家族へ書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花や木々を飾ったり、外気を取り入れ季節を感じれるようにしている。	事業所は、旧小学校の校舎を改装して室内を設えている。ホールは、エアコンや24時間換気、加湿器などで空調管理している。建物内の居心地の良さを引き出すため、生活感や季節感のあるものをうまく活用している。季節に応じた貼り絵などの作品を壁に飾ったり、四季の花を飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ地域や同い年、性別などで気兼ねなく生活が送れるように食席位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすいように利用者様と配置を相談している。家族の写真や馴染みのある物、施設イベントで貰った物で、居心地よく過ごせるように工夫している。	小学校の教室を居室に改装しており、居室にはエアコンやベッド、クローゼット、小学生が使用した机と椅子が備え付けてある。入居者は、寝具や使用していた筆筒、写真など思い出の品々を持ち込んでいる。ベッドの配置などを職員と相談しながら行っている。	

令和 4 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な歩行ができるように施設内には手すりがある環境で必要であれば増設もしている。トイレの順路や居室には分かりやすい花など、絵と名札を表示して自分の部屋が認識しやすいようにしている。		